



乙巳の年を迎えて

広報委員(北部地区医師会)
出口 宝

新年明けましておめでとうございます。

広報委員になり2回目の巳年を迎えました。前回の巳は癸巳(みずのと・み)でした。

この年は日銀が異次元の量的・質的緩和を決定し、消費税率の8%への引き上げが決定するなど日本経済や生活にとっては大変な巳の年でした。また、中国が尖閣上空に防空識別圏を設定しました。フィリピンでは台風30号により7千人の死者・行方不明者が出た年でした。一方、2020年夏季五輪・パラリンピックの東京開催が決定するなど明るい話題もありました。そして、干支は一回りして、今年は乙巳(きのと・み)です。乙は十干の2番目で陰陽五行では木の陰です。また巳は十二支の6番目です。

十干十二支には60通りの組み合わせがあります。これが一巡りして還暦となります。十干は時間の経過によって起こる変化の法則を示しているとされ、不況が60年周期で起こるのもその一つと言われています。また、社会もそれによって変化していると言われてきました。乙巳は様々なことにケリをつける形の年であるとされています。そこで、乙巳にはどのような出来事があったのか少し調べてみました。23回前の645年には乙巳の変(いっしのへん)による大化の改新がありました。古代日本国家の起源とされる中央集権的な律令国家が始まったとされています(史実性については諸論あります)。14回前の1185年には壇ノ浦で平家一門が滅亡しました。7回前の1605年には徳川家康が征夷大將軍を徳川秀忠に譲って大御所となり、駿

府城で隠居生活を開始しました。そして、前回の1965年には佐藤栄作首相が戦後の現役首相として初めて沖縄を訪問し「沖縄の祖国復帰が実現しない限り、わが国にとって戦後は終わっていない」と演説しました。なるほど、これらを見ると事象にケリをつけるのが乙巳の年なのかと思わせます。さらに、十干十二支を調べると、物事の筋道をつける「癸卯」、新しい芽生えの苦闘と前途波瀾を予測させる「甲辰」、こうした事象にケリをつける「乙巳」とされ、この3年が続くと新時代の到来の暗示となるとされていました。ますます、どの様な時代になっていくのか楽しみになってきます。

2025年をキーワードに検索すると超高齢化社会による「2025年問題」や日本企業の基幹システムの老朽化による「2025年の崖」がでてきます。一方で、2025年は昭和100年にあたり、昭和生まれにとっては最近の昭和ブームも重なって何か良い事がある様な予感がしています。

「元日の塵はつまんで捨てられる」、正月は掃除をせずに舞い込んだ福の神を大切にすることが大切です。さて、四方山話ばかりになりましたが、今年も会内外に向けた広報活動に務めて行きたいと思います。

改めまして、今年もよろしくお願い申し上げます。





新しい年を迎えて

広報委員（中部地区医師会）
山川 研

会員の皆様、明けましておめでとうございます。新年を迎えて改めて2024年を振り返ってみますと、実に様々なことがありました。年明けすぐの1月1日に令和6年能登半島地震が発生し、462人（2024年11月26日時点）が亡くなりました。大きな爪痕を残しただけでなく、その後の復興も様々な課題に直面しており、災害に対する備えの重要性を再認識しました。その衝撃の最中である翌1月2日に羽田空港地上衝突事故が発生しました。同日に旅行先から帰沖したのですが、羽田空港に戻れない観光客で那覇空港は混雑を極め、タクシー乗り場に長蛇の列ができ、モノレールの駅は入場制限がかかる有様でした。海上保安庁の職員の方々が犠牲になる痛ましいニュースの一方で航空会社のスタッフの皆さんが恐怖心を上回る使命感で搭乗者全員を脱出させたことは、一縷の救いのように感じました。新年早々大事件の連続で2024年の先行きに大きな不安を感じたことを思い出します。当然ですが、2024年は良いニュースも多く、悲しみと希望が交錯した年でもありました。個人的には、パリ五輪での日本選手の活躍やLAドジャーズの大谷翔平選手の大記録達成とMVP受賞が印象に残ります。その他にも石破新首相の元で実施された衆議院議員選挙での与党の大敗とトランプ氏の米大統領再選は、人々の価値観が大きく転換していることの象徴のように感じました。また、中東における世界で最も解決が困難と言われている問題で、無辜の人々に多くの犠牲者が出たことも忘れてはならないことだと思います。

こんなにも多くの印象深いニュースがあったのですが、2024年自体が特別な年だったかどうかは、後世に評価されることでしょう。新し

い年も同様、あるいはそれ以上に波乱に満ちたものになるかもしれません。これらを踏まえた新年の心構えとしては、予想外の事態に対しても常に備えと警戒心を怠らず、自分で限界を作ることなく進み続け、様々な立場の人々や社会に関心を持ちつつ、与えられた使命を果たしていければと思います。新しい年におきましても、皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。



広報委員の新春の挨拶

広報委員（浦添医師会）
照屋 徹

あけましておめでとうございます。

浦添市医師会の照屋 徹と申します。令和6年8月より蔵下 要先生の後を受け広報委員の一員として活動させていただいております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和6年は元日の能登半島地震に始まり、1月2日の羽田空港での海上保安機との衝突事故によるJAL機炎上、7月は秋田県・山形県での記録的豪雨、8月には宮崎での震度6弱の地震に対し初めての南海トラフ地震の臨時情報が発表されました。さらに地震のあった石川県では9月の能登半島豪雨があり、当県においては11月に国頭村での豪雨災害があり、災害は祝祭日に関係なく、かつ身近でも起こりうることを思い知らされた一年でした。能登半島地震でのJMAT活動報告を拝見すると被災後の支援のみならず、被災した際の受援についても日頃より考えておかなければならないと思いました。平成28年の熊本地震後に災害対策として災害拠点病院の指定要件にBCP策定が追加されましたが、診療所・クリニックレベルにおいても、BCP（事業継続計画）の策定の必要性を実感しました。医療環境の早期復旧と持続的な医療提供を行うために、今一度自院周辺のハ

ザードマップを見直し、自院で起こりうる災害を想定しておく必要があると考えます。

さて、令和7年は1月からアメリカでは第二次トランプ政権が発足し、保護主義復活により関税引き上げに伴う輸出の低迷やインフレ加速が日本国内において予測されています。ロシアのウクライナ侵攻以降の物価上昇が続く中、さらなる円安予想は日本の医療における不安定な薬剤供給に影響しそうです。原材料の多くは輸入に頼っており、ただでさえ抑制された薬価により採算が取れない状況であり、日本の誇りである皆保険による安全な医療を提供する大前提が脅かされています。先行き不安な要素ばかりですが、少数与党の石破政権に頑張ってください、少しでも経済が好転し医療にも明るい日差しが差し込むことを期待したいところです。

末筆ですが、令和7年が会員の皆様にとりまして健康で明るく良い年になるように祈念いたします。



新年の挨拶

広報委員(那覇市医師会)
間仁田 守

明けましておめでとうございます。

インフルエンザ、コロナには未だ悩まされることもあります。ほぼ日常が戻ってきたことは大変うれしく思います。

今年の干支は乙巳(きのと・み)です。

乙(きのと)は、十干の2番目で「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へ広がっていく意味を持ちます。また巳(み・へび)は、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされております。

そのため乙巳(きのと・み)の年は、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」

年になると考えられているとのことです。

昨年からの医療経営について少し勉強を始めましたが、今後ますます医療現場は厳しくなってくることを実感しています。そんな状況だからこそ、脱皮を繰り返しながら、新しい環境に対応出来るように今年も県医師会の先生方と共に頑張りたいと思います。

本年もよろしくお願ひいたします。



2025年新年のご挨拶

広報委員(那覇市医師会)
高橋 隆

沖縄県医師会会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。いよいよ2025年がスタート致しました。2024年7月より沖縄県医師会広報委員に任命されました大浜第一病院の高橋です。これまでは那覇市医師会にて広報委員を1年務めさせて頂いておりました。

沖縄県医師会広報委員会では会報の表紙の写真選定から始まり、現在医師会主導で行われている様々な施策や診療、保険事業等の情報の収集・選別、そしてこれらを分かり易くまとめ会員の皆様にお届けするという事を月1回の委員会で行なっております。更にその他にも会報誌に載せる記事内容の確認や新分等に掲載する文章のチェック、様々な重要ポストにご就任された先生方へのインタビュー等多岐に渡っております。現在、私自身は他の広報委員の先生方の仕事内容やその進め方などについて色々勉強させて頂いております。

2024年は梅雨時期に沖縄県本島地方で連日気象庁からの大雨警報、雷注意報により、昼夜を問わずスマホから避難指示の警戒アラートが鳴り響き、多くの地域にて浸水のニュースが連日報道されておりました。しかし梅雨が明けると、打って変わって猛暑スタート、連日35度

に迫る気温と痛い程の紫外線により日中はおろか深夜や早朝においても暑苦しい日々が11月に入っても続いていました。

また気象のみならず医療関係でも様々な出来事が起こりました。働き方改革元年、診療報酬のトリプル改訂等々多くの医療機関にとって大きく変革せざるを得ない出来事が大変多かったと思います。

2025年も予想出来ない様な様々な困難に直面するかも知れませんが、県医師会、地区医師会において、これらの問題に対しどの様な対策を取るのか、またその後に改善したのかどうかの評価まで広報委員の立場からしっかりと自身の眼で確認していきたいと思っております。

2025年も会員の皆様にとって実りある1年であることを祈念しております。今後とも宜しくお願い致します。



山又山!
(さんじょう・やままたやま)

広報委員(南部地区医師会)
照屋 勉

あけましておめでとうございます!。令和6年は、大谷選手の2年連続 MVP や「50-50」など明るいニュースもありましたが、「裏金問題」、「トクリュウ(匿名・流動型犯罪グループ)」、「闇バイト」、「マイナ保険証問題」など混迷する国内事情に加え、落としどころが見えない「ウクライナ・パレスチナ問題」、「ロシア・北朝鮮・中国・台湾問題」など世界各地で起こっている考えられない現実を目のあたりにしてまいりました。令和7年の年頭にあたり、世界平和を切に願い、戦争・紛争の一日も早い終結に期待する新年のスタートです!。

さて、小生の今年のテーマは、「山又山! (さんじょう・やままたやま)」…。「山の向こ

うにあるさらに大きな山…!」、「その山をまた登る!力尽きるまで登る!」～「逆境を乗り越え、新しい人生、新しい道を切り開いていきましょう!」…という珠玉の名言です!。【参考】「生涯現役!臨終定年! by 松原泰道氏」、「何事も徹せよ! by 野村克也氏」、「弱みは弱み!強みを磨け by 森岡毅氏」、「耕せども尽きず! by 山中貞則氏」、「更参三十年! by TomTom」etc…。また、令和7年は、平成37年、昭和100年…。新年早々、“ちょうどいい人たち”に囲まれて幸せになるために、『本当に大切なもの!』を列挙羅列いたしますと、①「素直な心!」、②「健康な体!」、③「思いやり!」、④「感謝の気持ち!」、⑤「生活できるお金!」、⑥「幸せに気付ける心!」、⑦「自分を甘やかす時間!」、⑧「味方でいてくれる家族!」…ということになります!。

最後に、F.B.からの名言(苦言)をひとつご紹介いたします!。①「意志(いし)が濁ると意地(いじ)になる!」、②「口(くち)が濁ると愚痴(ぐち)になる!」、③「徳(とく)が濁ると毒(どく)になる!」…。「意地」を張らず、「愚痴」も言わず、「毒」にも負けず、「焦らず、怒らず、諦めず! by 美空ひばり氏」、「責めず、比べず、思い出さず! by 高田明和氏」を肝に銘じて、前向きなスタンスで今年も頑張って参りましょう!。ゆたしく、ゆたしく…。合掌…!。





花咲かじいさん

広報委員
(国察沖縄公務員医師会)
久志 一朗

明けまして、おめでとうございます。

今年は、「花咲かじいさん」を目標に楽しく生活したいと考えています。

きっかけは、一昨年のクリスマスに頂戴したポイントセチアが鉢替えしながら大きく育ってくれたことでした。水やり程度であまり手をかけていませんでしたが、植物に興味がなかった私に思いがけない喜びを与えてくれました。その後、オリーブの木や花々を買いたしながら、玄関周囲、小さな庭に植えてみました。

花木にも個性があり、日向・日陰の好み、水やり頻度、肥料なども違い大きな失敗もありましたが植物の育て方のアプリを参考にしながら成長を楽しみにしています。

職場で植物の話をするとなんか何かしらの花木を育てており、上手に育てるアドバイスや安いお店の紹介など会話にも花が咲きます。なんと、コーヒーの木を7年育て取れた豆を焙煎、挽いて抽出まで完全手作りコーヒーを実践した方もいました。ちなみに、手作りコーヒーはとてもとても美味であったとのこと。

植物に触れること、香りなどは、人々に癒しを与えてくれると言われますが、興味を持って見渡すとショッピングモール内、住宅街でも花木はよく見られ日常生活に欠かせないアイテムとなっています。

若い人は植物の好みによって気分が左右されるようですが、歳を重ねてくると花木の種類によらず癒されるようです。ホームセンターの園芸コーナーにもよく出掛けますが、買い物客は年配の男性が圧倒的に多いと感じます。植物と触れ合う心地よさは、きっと遺伝子の中に組み込まれていることでしょう。地球の環境は、光合成や食物連鎖の観点からも植物の恵みなくし

ては語れませんが、花木を好きな感情も多少役に立っていると思います。

家の周りを花々でセンス良く賑やかにしてみたいとも思っていますが、やっぱり果実がなる木も育ててみたい、自家焙煎が出来るくらいコーヒー豆を収穫してみたいと夢は膨らむばかりです。「花咲かじいさん」の境地に達するまでは時間を要しそうなので、今年は「花とおじいさん」で純粹に楽しむこととします。



初めてづくし

広報委員(琉球大学医師会)
西江 昭弘

皆様、明けましておめでとうございます。琉球大学 放射線診断治療学講座の西江です。新年のご挨拶、今回も昨年を振り返って綴りましたが、「初めてづくし」の一年だったことを実感しました。

まず私事ですが、コロナ禍で延期されていた私の教授就任祝賀会を開催していただきました。出身の九州大学と現職の琉球大学の放射線科で、それぞれ同門会を中心にお祝いいただき、本当に感謝しております。はじめは腰が引けていたのですが、最初で最後だと思っておりますので、実際に行ってみると一生の良い思い出になりました。気持ちを新たに頑張りたいと思います。また、4月にはコロナ禍以降で初めて医局旅行が企画されました。医局旅行は生涯3回目ということで大変楽しみにしていました。今回は充実した3部構成となっており、①北中城にあるレインボーテラス沖縄での昼食会、②沖縄アリーナでの琉球ゴールデンキングスの試合観戦、③沖縄アリーナ近くのベッセルホテルのバーで3次会になります。多忙な日常を忘れる機会にもなり、非常にありがたいものでした。6月には院内の当直体制をオンコール体制へ変

更しました。琉球大学病院 放射線科としては初めての試みです。影響が想定される各部署とのやり取りを終えて、現在は依頼があった症例の画像をアプリケーションを介して自宅で確認しています。今後は院内の遠隔読影システムも導入予定で、さらなる業務改善を進めていきます。また、九大医学部同窓会沖縄支部総会にも初めて参加させていただきました。私自身、このような会があることを存じていなかったのですが、先輩や後輩の先生方と有意義なお話しをすることができました。以前の私の講義を憶えてくれた若い先生もおられ、大変嬉しい限りです。また、大先輩の喜久村徳清先生からは、ご自身で執筆された「うちなあーから南風について」「人生にかしがある」の2冊の本をいただきました。文学的センスが皆無の私にとっては到底真似できないことで、ただただ尊敬の念しかありません。

最後の初めてはつらかったことですが、夏季休暇中のある日、朝起床する際に、うつ伏せの状態では顔を捻ると、右肩、首、上肢に激痛が走りました。確かに前日から右肩の痛みを感じていたのですが、寝違い程度にしか考えておらず、まさかと思いましたが、最終的に頸椎椎間板ヘルニアの診断でした。とにかく身の置きどころがない痛みで、何を行っても、どういう体勢であっても痛みが引かず、唯一右上肢を拳上することで軽減するものの、当日の夜は一睡もできませんでした。翌日の出勤後も、痛みでタイピングや画像のスクロールができないため、他の先生方にご迷惑をおかけしましたが、患者さんの気持ちを改めて認識した良い機会ではありました。

それ以外にも新しいHP作成、入試関係や移転後の施設整備などで様々な初めてがありましたが、冗長になりそうですので、この辺りで筆を置かせていただきます。

来年1月には西普天間への病院移転が控えており、どんな初めてづくしになるのか、期待と不安が入り交じった複雑な心境です。移転後のことは想像できませんが、また次の機会でご報

告させていただきます。今年もお世話になりますが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



吉兆のきざし

対内広報担当理事
久貝 忠男

あけましておめでとうございます。今年は巳年（へび年）。へびはその不気味さから嫌われものの代表格ではないでしょうか？おまけに毒まで持つものもいる。しかし、へびは医神アスクレピオスの「杖」に巻き付き、古くから生命の象徴として扱われてきた。脱皮する特性が「回復と再生」を意味し、強い毒が薬などに使用され医学や薬学の象徴とされている。それゆえ「杖」はWHOや救急車のシンボルにもなっている。また、へびの“夢”は吉兆とされる。

そんな巳年に医師の偏在解消を願いたい。広大な沖縄本島北部には10万人が住んでいるが、医師不足は何十年も変わらない。偏在指数以上に医師不足感が強く、現場感覚とのズレに苦しんでいる。

日本の医学部の定員（約9,400人）は過去最大の規模にあり、医師は着実に増えている。無論、需給バランスを考えた医師増を考えなければ、犠牲になる若者が増えるばかりである。一方では、人口減少があるなか優秀な若者だけを医学部に囲い込むことが果たして国としていいことなのか？との疑問もある。増やすばかりでなく、偏在対策こそが急がれるべき対策ではなかろうか。

しかしながら、長年様々な対策が取られながらもいまだに根本的解決に至っていない。自由選択で「そこに行きたい」との思いを育て、偏在が解消されるのが理想だが、そうはならない。依然、大都市に医師が集中するのは後を絶たず、

地方病院の不足は深刻である。逆に最近美容医療に携わる若手が増え、「直美（ちよくび）」なるものが闊歩している。医師不足は「永久に解決しない」難問なのであろうか？

医師は人である。「仁術」を前提にすれば、人である以上、各世代で悩みが尽きない。20～30代は自分の能力に悩み、40代は子育てで悩み、50代以降は自分の行く末で悩む。これらの悩みはなくなる。特に、へき地・離島の医師には深刻である。人はみんな便利で、物が豊富な都市部が好きである。しかし、医療は水や電気と同じ社会インフラであり、その担い手の医師は公共財的な要素がある。

医師の養成過程には国公立、私立問わず多額の税金が投じられ、診療報酬も税金や保険料で支えられている。地域医療が公共のインフラであることを思えば、医師は公益の観点から国民奉仕を忘れるべきではない。医師が過剰に参入している都市部や診療科では規制的手法も検討すべき時機と思考している。

願いをかなえるため、初夢にへびが私の枕元に現れるはずである。



新年のご挨拶 2025

対外広報担当理事
稲富 仁

新年あけましておめでとうございます。沖縄県医師会会員の皆様には、日頃より地域医療を支え、患者さんに寄り添う診療にご尽力いただいていること、そして医師会活動への多大なるご協力を心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

とうとう以前から危惧されていた2025年問題のその年を迎え、いよいよ現実のものとなりました。少子超高齢化社会による社会保障費増

大、労働力低下、医療・介護の整備など随分前から対策は論じられ準備をされてきていますが、あまり効果はないように感じます。

沖縄県は他府県に比べると少しだけマシなようですが時間の問題でしょう。今年も皆さんと一緒に問題解決に取り組んでいきたいと思っています。

現在、私は医師会の対外広報を担当させていただいており、この度日本医師会の広報委員にも任命いただきました。最近では総理大臣選挙、アメリカ大統領選、ルーマニア大統領選や兵庫県知事の件、ワクチンに関する事など既存のマスメディアやSNSやデジタルメディアの情報が錯綜し、世の中はかなり混乱しています。真偽に関わらず大勢の人が信じていることが真実であるとして世の中は動いています。

広報に携わる立場として、公平性を保ちエビデンスに基づいた情報を迅速に発信しなければいけないと改めて感じております。

2025年は色々と想定外な出来事が起こりそうな気もしますが、劇的に成長し続けているAIを駆使すれば、何とか乗り切れるのではないかといつもながら能天気と考えております。

新しい年が皆様にとって希望に満ち、健康で充実した一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

